

東京農業大学大学院とJICAとの連携

志和地弘信

JICA国内研修事業で大学と連携した修士付与型研修が実施されるのに伴い、2006年よりJICA筑波センターと連携事業を行っていた東京農業大学では、筑波センターからの照会（2007年12月）により研修員（留学生）受け入れの検討を始めました。修士付与型研修の受け入れに際し、カリキュラムの改正が必要だったことから、受け入れを了承したのは農学研究科の国際農業開発学専攻だけでした。国際農業開発学専攻では2008年に英語での開講を基本としたカリキュラムを作成しました。2009年4月より、新カリキュラムに切り替え、2010年度から研修員（留学生）を受け入れる準備が整いました。

まず、タンザニアの技術協力プロジェクトの灌漑農業技術普及支援体制強化計画（タンライズ）から博士前期課程と後期課程にそれぞれ1名を受け入れました。次に、2009年6月にJICA筑波センターと東京農業大学で「課題別研修（長期）アフリカ・コメ生産普及コースに係る研修の実施」について覚書が交換され、2010～2013年にかけて博士前期課程に研修員を受け入れることになりました。この研修では作物学、育種学、作物保護学、農業開発経済学、農村社会学の分野で9名が学びました。2012年からはアフガニスタンのJICA未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト：Project for the Promotion and Enhancement of the Afghan Capacity for Effective Development（PEACE）からアフガニスタン研修員の受け入れを行い、博士前期課程では国際農業開発学専攻に21名、博士後期課程では国際農業開発学専攻と農業工学専攻にそれぞれ4名を受け入れています。

2013年に開始されたアフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（African Business Education Initiative for the Youth：ABEイニシアティブ）では、国際農業開発学専攻だけでなく、農業工学および国際バイオビジネス学専攻も受け入れを行い、これまでに26名が学んでいます。2018年からはシリア平和への架け橋・人材育成プログラム、中南米知日派リーダー育成プログラムからもそれぞれ1名を受け入れている。また、EthioRice（エチオピア）、イエジン農大プロジェクト、SATREPSなどからも受け入れを行なっています。

東京農業大学では研究力のアップのために、大学院生の研究支援を行っており、大学院博士後期課程研究支援（毎年25名、30万円の研究費を支援）をしています。また、多くの大学院生が科学研究費によるプロジェクトや学内公募型のプロジェクト（大学戦略研究：10課題、大学院先導的実学研究：5課題、総合研究：5課題）などに参画し、プロジェクト形式の研究手法を学んでいます。国際的な農学人材の育成には、大学院生海外研究発表支援（毎年50名、10万円の旅費を支援）があります。これらはJICAの留学生も応募が可能で、多くのJICA留学生が海外での研究発表などにチャレンジしています。また、海外の大学・研究機関と共同研究も行なっています。CGIARの国際熱帯農業研究所（IITA）とは2012年にMOUを結び、これまでに16名の大学院生と1名のポスドクを派遣し、1名が研究員に採用されています。昨年度からは国際生物多様性センター（BI）と共同研究を開始し、来年度からは国際イネ研究所（IRRI）とも共同研究を開始する予定です。